

科目名	裁判法入門（司法制度基礎）	
担当者	三浦 毅 / MIURA, Takeshi	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
科目概要	授業内容	裁判手続を身近に感じる機会が多くなった今日の情報化社会の中で、わが国の司法制度の仕組み及びそれを支える法律家の実態等について、実務例を紹介しながら概説します。
	到達目標	各種裁判手続の概要を理解し、裁判実務が具体的にどのように行われているのかイメージを掴めるようになる。
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス（授業の進め方、成績の評価基準など） (2) 民法の実現と民事手続(1-21) (3) 刑法の実現と刑事手続(21-44) (4) 司法権と違憲審査権(44-59) (5) 裁判所制度(61-95) (6) 法律家の役割(97-148) (7) 裁判の仕組み（民事裁判）（149-181） (8) 裁判の仕組み（家事裁判）（182-185） (9) 裁判の仕組み（行政裁判）（186-205） (10) 裁判の仕組み（刑事裁判）（205-238） (11) 裁判の仕組み（憲法裁判）（239-250） (12) 裁判をめぐる現代的課題（裁判を受ける権利）（251-262） (13) 裁判をめぐる現代的課題（国民の司法参加）（262-277） (14) 裁判をめぐる現代的課題（国際化と裁判、司法制度改革）（278-301） (15) まとめ 	
自学自習	事前学習	受講者は、教科書の対応ページ（授業計画に示した頁数）を事前にお読みください。また、意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	配布されたレジュメや資料の確認、講義内容を復習しておいてください。3回おきに小レポートを課します。
使用教材・参考文献	<p>【教】市川＝酒巻＝山本『現代の裁判 第5版』有斐閣アルマ 2010年 ISBN:978-4-641-12363-2</p> <p>【参】小島武司『ブリッジブック裁判法〔第2版〕』信山社 2010年</p>	
成績評価方法と基準	<p>〈基準〉総合評価の結果、概ね6割以上の得点率を獲得した者は合格とします。</p> <p>〈方法〉小レポートの結果(30%)、期末試験の結果（70%）を総合評価します。</p>	
備考	六法（コンパクト六法可）を毎回持参してください。	